

— 1927. Trees and shrubs indigenous in Japan proper. rev. ed. 1: 361-388 (in Japanese). Ohwi, J. 1953. New names and combinations adopted in my "Flora of Japan". Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo no. 33, 66-90.

* * * *

関東地方南部に分布するイボタノキ属の樹木のうちミヤマイボタ *Ligustrum tschonoskii* Decne. およびオオバイボタ *L. ovalifolium* Hassk. の変異は著しく、かつたがいに重なりあっており、それに関連してオカイボタ *L. hisauchii* Makino の存在もいまだ不明確であった。そこで他の地域におけるミヤマイボタおよびオオバイボタの変異をもとに、葉の下面の毛の有無によって、この地域に分布する両種の区分をおこない、さらに外部形態および地理的分布よりミヤマイボタをミヤマイボタ・タイプとキヨズミイボタ・タイプの2タイプに、またオオバイボタをオオバイボタ・タイプ、ハチジョウイボタ・タイプ、オカイボタ・タイプの3タイプに区別して、それぞれのタイプの花、葉、花序の変異の幅を調べた。その結果、ハチジョウイボタ・タイプはオオバイボタ・タイプに比べて、花筒部長、花糸長、がくの深さ、やくの長さ、柱頭の挿入の程度、やくの抽出の程度などにちがいがみられた。オカイボタ・タイプはオオバイボタ・タイプに比べて、柱頭の長さ、やくの幅、柱頭の挿入の程度、やくの抽出の程度、葉と花序の大きさなどにちがいがみられた。その結果ハチジョウイボタ・タイプはオカイボタ・タイプと比べ、オオバイボタ・タイプからの分化の程度が高いことがわかった。キヨズミイボタ・タイプはミヤマイボタ・タイプに比べて、花糸の長さ、やくの抽出の程度、葉と花序の大きさなどにちがいがみられた。オカイボタ・タイプのオオバイボタ・タイプからの分化の程度はキヨズミイボタ・タイプのミヤマイボタ・タイプからの分化の程度と比べて、ほぼ同じであると考えられる。他の地域ではミヤマイボタおよびオオバイボタが明確に区別しえることから考えて、ハチジョウイボタ・タイプおよびオカイボタ・タイプはオオバイボタ・タイプの、またキヨズミイボタ・タイプはミヤマイボタの、関東地方南部に固有の変種としてとらえられるべきである。

□柳田国男：野草雑記 102 pp. 1985. 八坂書房，東京。¥2800. 植物の方言に興味ある人は柳田国男の本に親しんだ人が多い。本書の内容はすでに出版された記事ではあるが、「野草雑記」(タケニグサにくわしい)、「蒲公英」「虎杖及び土筆」「莖の方言など」「草の名と子供」の文を集め、三島三治氏の本文に関係ある植物写生の17彩色図をとまなう。末尾に金田一春彦氏の「柳田先生と野草」の一文、および和名・俗名索引がある。

(木村陽二郎)